

01. パビリオンの全体配置について



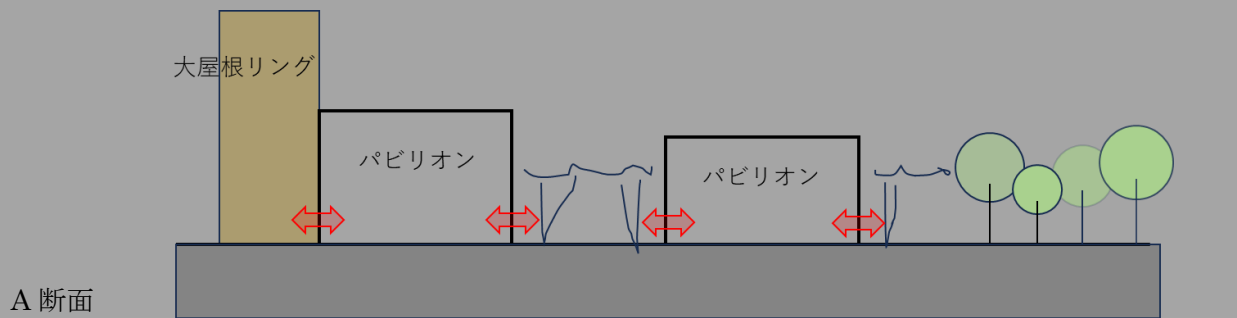
今回の視察で、大屋根リングと各パビリオンがあまりよく融合されていない印象を受けた。そこで、万博の全体的配置を私なりに考えてみた。

●大屋根リングの求心性を配置の基本構成とする。大屋根リングに沿ってパビリオンを配置してリングからパビリオンに出入りする。リングを主動線にするのは、日差し・降雨除けとしても有効である。また、その内側にもう一つのパビリオンの列を円形に配置してパビリオン同士の間にもう一つの動線リングを形成する。そして、全体円形の中心には、地球環境保全の象徴となる森を配置する。

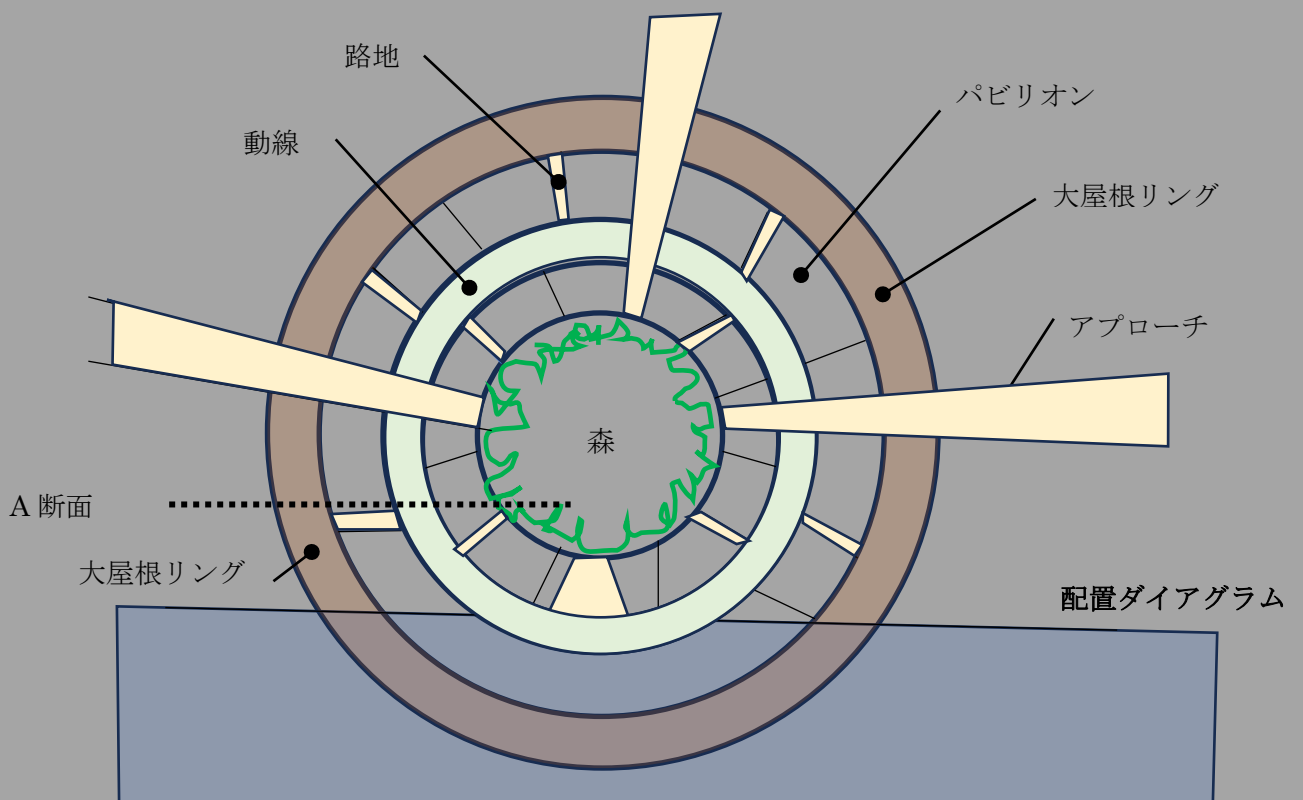
●4方向からの中心に向かうアプローチを設ける。また、パビリオンの間をぬける「路地」を設ける。「路地」は、公共トイレやベンチがある休憩スペースでもある。隙間空間を豊かにすると、全体計画に深みが出てくると考える。

●今回の万博は日本での開催なので、「縁側」的な「木造」リングの位置付けや「路地」のつくり方で日本の良さを表現する。その隙間空間「路地」を若手の建築家にデザイン依頼しても良かったのではないかと考える。

小野



A断面



配置ダイアグラム